

十月九日

丹羽君が体調悪くH・Pが動いていないが、時々こういう事が起きるのはH・Pにとって良い事だ。が、丹羽の体調は心配。昨日の江戸建物園の見学は興味深かった。今日は午後から利根町百人スクールに出掛けるが、本格的な第一回のレクチャーの内容に昨日の体験が反映されそうである。今日、利根町に提案するのは、利根川との生活を、つまり、水が身近にある生活を取り戻すこと、その為に先ず小川の再生を実践すること、小川の再生の為に水を勉強する幾つかのクラスに分かれたスクールを建ち上げることに、そのスクールの場所を、できれば利根町の歴史が現れ、わかりやすい形で理解できるところに設定する準備をすること、等である。庭の柿の木に小鳥が沢山やってきて、うるさい位に鳴いている。十時前研究室。今日のレクチャーの準備、及び明後日の日本フィンランドデザイン協会での静けさデザイン、ブツリズムとデザインの準備。仏教遺跡とヨーロッパの、つまりキリスト教遺跡の考察から入ってみよう。遺跡に対するメランコリーの質の骨格のちがいにについて調べてみたい。大きな事を言うのは大体失敗するのが常なのだが、この問題は大きく出ざるを得ないのだ。十二時半過研究室発。十三時五〇分過取駅。うどんを喰べて、渡辺先生引率のもと七、八人で利根町の古木巡り。円明寺その他、八〇〇年位？のスタジイ・エノキ等見事。樹をしみじみと見て廻るのは初めての事で面白い。石川さん宅のマキの樹、大越さんの

ところのイトヒバも見事であった。人間達よりも皆スーツと長く生きてきた樹木達である。佐藤さん宅で皆さん手作りの夕食をいただく。十九時前柳田国男記念公園の建物でレクチャー。四〇名程度の参加者。この町にはたぶの樹が多いそうで、松崎町で外尾悦郎が作った、たぶの樹の彫刻の話が親近感を感じて貰ったようだ。二十一時迄話をする。久し振りの町づくりのレクチャーで話して楽しかった。利根町には4回目の来訪で、丁度良いレクチャーのタイミングであった。皆さんも楽しんで聞いて下さったようだ。二十二時前佐藤宅へ戻る。教育長をはじめとする役場の人々、議長さん等集まり談笑。私は〇時過まで一時間程仮眠する。

十月十日

仮眠後〇時三〇分蚊網神社奥宮へ。本題の深夜の神事見学の為二〇名程の百人スクールの参加者。奥宮には、ちようちに光が入り、美しい。月がこうこうと光り輝いていて、境内は神々しい。社務所で小休。リポビタンDいただく。おかしいよコレワ。利根町のオバさん達は元気にしゃべくつてる。神事は二時からだそう。茨城新聞の人たち他、神事取材の人たちも境内に集まっている。境内には利根町で一番大きなたぶの樹があり、人間の二まわり半程もある。この町で何が始められるのか不明だが、淡々とやってみよう。オバさん達が人なつこくて、仲々良い。オバさん達の町づくり、かな。

結局、祭事が始まったのが三時。松明に灯をともし、十人程の神官姿の氏子達が蚊網神社門宮へ。五〇〇メートル程夜の山道を歩く。再び奥宮へ戻り、大きなカマに湯をわかしているのに、何かの葉のたばをつけて神巫と参拝者達にまく。最後は白蛇を形取

った大きなワラのたばに火をつけて、神酒がふるまわれ、修了。朝の四時過ぎであった。佐藤宅で三時間程休み。八時過起床。朝食をいただいたり九時過取手駅。常磐線、埼京線を乗り継ぎ指扇へ。十一時過指扇現場。大工打合わせ。十二時過発。十三時過研究室に戻る。丹羽君今日も休み。何事も無ければ良いのだが。今年の二月の記録を読み直し、沖縄北部広域の印象その他を記憶に呼び起す。沖縄に対応する陣容を固め始める。十五時製図。十八時前後終わらせて、カナダ大使館東京倶楽部へ。日本フィンランドデザイン協会理事会&ディナー。フィンランドの面々は本当にすれからしじやない好人物が多い。これでは信頼関係を裏切れないな。二十二時過修了。二十三時過世田谷村に戻る。

十月十一日

七時過起床。風呂に入って、頭も洗って、昨日の澱みを落とす。「静けさのデザイン」の今日は日本フィンランドデザイン協会のシンポジウム。十二時に新宿の文化女子大学に行かねばならない。「ブツリズムとデザイン」について報告しなければならぬので、少し準備する。以前、ヨルク・グライター教授と議論した遺跡（廃墟）に対する考えをベースにしてみたい。現代の廃墟、九・一一によって出現した廃墟はひろしまの廃墟、ユダヤ人大量殺人の廃墟、そして、ポルポトによるプノンペン（カンボジア）の廃墟、そして、死者の沈黙こそ、我々が深く考えを集中させねばならぬ事、について発言する積もりである。「静けさ」というともすれば私的なフィードバックの散乱に終止しかねぬ主題を意味あるものとしてとらえるには近・現代の沈黙、戦争によって現れる巨大な沈黙の意味を考える必要がある。

十一時頃新宿文化女子大学へ。二十階ホールのシンポジウム会場へ。スライド、セプトした後近くで昼食。辛口カレー。十三時「静けさのデザイン」を巡り、シンポジウム。栄久庵憲司欠席の為、冒頭スピーチはビデオ。島崎理事長、ヘルシンキ芸術大学ソタマ学長挨拶。基調講演。十四時三〇分シンポジウム開始。私は予定通り、フィンランドの人々特有のメラノコリーについて述べる。フィンランドのインダストリアルデザイナー、ティモ・サツリ建築家ミッコ・ヘッキネンのレクチャーが興味深かった。シンポジウム終了後、レセプション。GKの各グループのリーダー達数名と話す。ヘッキネン氏等とも話す。彼はどうやらフィンランドを代表する建築家の一人であるようだ。二〇時前京王プラザホテルに移動。お別れレセプション・パーティー。マッティ・ラウティオラ教授と話す。二十二時過、唄が出たりでリラクセスしたところで、私は会場からサヨナラした。二十三時過世田谷村到着。

十月十二日 日曜日

七時頃起床。昨日は午後から夜遅くまで、日本フィンランドデザイン協会の行事にかかりつ切り。フィンランドの建築家マッティ・ラウティオラ、ミッコ・ヘッキネン両氏と知り合いになった。来年度、両氏とオープン・デスク・システムを相互に行う事で合意。朝十一時研究室。十三時からのレクチャーのための準備。十三時本日の受講生がポツポツ集まり始める。丹羽君は退院したようだが、用心して今日は休み。予定通り十名位の教室になりそうである。デューク・エリントンとコルトレン共演の名盤かける。日曜日の気だるい午後二人の巨匠のバードが良く合っている。十五時四十五分レクチャー修了。アントニオ・ガウディとサイモン・ロディア。随分遠くから受講者が参加しているので力を抜か

ないで続けたい。今回は何人かの子供達が運動会と日時がバッティングして休みだったのでレクチャーは容易であった。次回は十一月二十三日。子供たちの参加が予定されているので、対応を考えなくては。十九時前、京王線新宿車内。世田谷村への帰途。今日は休息できるかな。

十月十三日 休日

朝、室内の樹木や草花にたっぷり水をやる。しかし、世田谷村の植物は良く育つな。今日は何もしないで過ごすつもり。新聞二紙ゆっくり読む。こういう時に限ってロクな記事が無いから、オカシイ。昨日、鈴木博之先生訳「ゴシックリヴァイヴァル」岩波書店、送られてきたので、読んでみよう。